

# 今後の活動の方針と全国と東京の連携のビジョン

東京都高齢者福祉施設協議会（以下「高齢協」）では4月の役員改選で田中雅英が会長に就任しました。田中会長は6月の全国老人福祉施設協議会（以下「全国老協」）役員改選にて、全国老協副会長にも就任しています。今号では全国老協の平石朗会長と田中会長の対談を通じて、今後の活動の方針と全国と東京の連携のビジョンについてお伝えしていきます。

※対談は10月27日に実施されました。発言は当時の状況に基づきます。



ひらいし あきら  
**平石 朗**

全国老人福祉施設協議会会長、社会福祉法人尾道さつき会理事長。岡山大学文学部を卒業後、尾道さつき会を設立後に広島県老人福祉施設協議会会長を経て、2019年より現職。



たなか まさえ  
**田中 雅英**

東京都高齢者福祉施設協議会会長、全国老人福祉施設協議会副会長。社会福祉法人三交会、大三島育徳会理事長。早稲田大学商学部を卒業後、損害保険会社、不動産会社、大三島育徳会設立を経て、2021年より現職。社会福祉学博士。

聞き手



まち あせい  
**町 亜聖**

フリーアナウンサー、東京都高齢者福祉施設協議会アンバサダー。学生時代から日本テレビアナウンサー時代にかけてヤングケアラーとして介護した経験を記した「十年介護」を出版したのち、介護業界の発信に取り組む。

# KOUREIKYO JOURNAL & TOKYO

高齢協ジャーナル

## 第11号

2021年11月26日(金)発行

発行：社会福祉法人東京都社会福祉協議会  
東京都高齢者福祉施設協議会  
(東京都新宿区神楽河岸 1-1)  
Tel. 03-3268-7172  
発行人：会長 田中雅英

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei>

東京 高齢協協会 検索  
ホームページにて高齢者福祉情報を発信しています。



### 目次

対談 平石朗氏 × 田中雅英氏  
今後の活動の方針と全国と東京の連携のビジョンについて ..... 1 - 3  
高齢協 TOPICS・室長コラム ..... 4

### 東京都高齢者福祉施設協議会とは？

東京都高齢者福祉施設協議会（高齢協）は、社会福祉法人東京都社会福祉協議会（東社協）の業種別部会連絡協議会に属する部会の一つとして、東京都内の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム・地域包括支援センター・在宅介護支援センター・デイサービスセンター等を会員とする組織です（会員数約1200施設・事業所）。

## コロナ禍での業務と生活の変化 オンラインを活用した 取り組みの推進

— 新型コロナウイルス（以下コロナ）の流行もだいぶ収まり、こうして直接の対談を実施できる状況をうれしく思います。コロナによる業務や生活の変化はありましたか。

平石 自宅の庭の手入れをするようになりました。新しい電動の芝刈り機も購入して、週一回芝刈りをしたり、花を植えたりという感じですね。女房に怒られますので、家の中はさわらないようにしていました。

田中 プライベートでは地元の公園を散歩するか、自宅で読書をして過ごしていました。たまに横浜港で船を眺めるとか、異国情緒あふれる中華街の横町を散策することも楽しい時間でした。

平石 全国の老協は会社に例えると、本社が東京にあり各地区に支社があるようなものです。私は広島県におりますので、本社で開催される会議に参加するには移動だけで片道4時間かかります。同様に各地の参加者にとっても移動時間は大きな負担ですので、2019年6月の会長就任時の総会で負担軽減のために、オンライン会議の活用を提案していました。

そうした流れがあり準備をしていましたが、翌年の3月からコロナの感染拡大が発生。移動が難しくなり、6月にはすべての委員会をオンライン化するよう発令しました。その有効性もご理解いただき、オンライン会議に迅速に移行出来ました。

コロナ禍は大変なことも多くありましたが、業界全体で新たなことを考えるきっかけとなり、改革につながった部分もあると感じています。

田中 東京都では、都知事がデジタルトランスフォーメーションを強く推進しています。ICTについて業界全体で学び、デジタル化が遅れがちな介護業界を変革していくという機運が高まっています。新型コロナウイルスについては、東京では施設におけるクラスターの発生が続きました。高齢者をお世話する人間が感染するわけ

## 都市部の知見を全国へ 日本の縮図・東京での 取り組みの共有を

— 今回の対談の本题に入ります。今期、全国老協の副会長を東京都から選出さ



れた狙いをお聞かせください。

**平石** 私が最も意識していたことは都市部の対策です。全国老施協は地方の会員が多く、直近の組織率（全施設を母数とした全国老施協への会員加入率）は、東京都の特養で28%となっています。日本の人口の1割を占める東京都の数字が低い状況は改善が必要です。地方の高齢者人口は減少していきますので、人口が減少しにくい東京都および都市部の対策をしなければ、全国老施協としての先行きも危ぶまれます。

そうした状況もあり、大都市東京の状況を把握し、全国老施協にも行政にもしっかりと意見を伝えられる都市部の方に動いていただきたいと思います。そのため通常2期4年間は同じ方が副会長を務める慣例に倣わず、この度の2期目の改選時に田中会長に依頼しました。

——田中会長、今後の全国老施協との連携や、副会長としての抱負についてお聞かせください。

**田中** 私も日ごろから全国老施協と高齢協の協力関係はさらに深めたいと考えていましたので、平石会長からの副会長就任の打診の電話を頂いた際、二つ返事でお受けしました。

介護報酬の地域区分は、23区の1級地からその他地域まですべての区分が都内に存在しています。島しょ部、中山間部もあるため、まるで日本の縮図のよ

うです。介護報酬を都内で取り合うというのも切ない話です。こうした問題を根本から解決できるように、全国老施協とともに取り組んでいきたいと思っています。日本の介護・福祉の向上を目指して全力で活動します。もちろん、東京都の介護サービスの窮状を社会へ発信し、制度の見直しにつなげていきます。

※級地

地域間における人件費の差を考慮し、介護保険費用の配分を調整するために定められた地域の区分

**平石** 東京都内でもそれぞれの地域特性に応じた課題を解決する必要があります。また、人材不足の問題も、東京が最も難しい状況にあります。最先端で課題と向き合う東京の知見を全国老施協でも共有し、地方に展開できればと思います。東京での従来の発想を変えていくような取り組みにも期待しています。

——課題が多いということは、アイデアが生まれやすく、革新のチャンスがあるということでもありませんか。今後の連携の展望はいかがでしょうか。



**平石** 全国老施協はおよそ1万1千の会員で構成されますが、個々の施設はそれほど大きくありません。しかし、それぞれの施設に利用者や職員がおり、生活の



ためにも必要不可欠です。それを維持するためには、個々の施設・職員の声を組織が結集して伝えなければなりません。理想ややりがいも重要ですが、働く方がこの仕事をしてよかったと感じられる給与を保証することが必要です。大規模法人のほうが労働集約や物品仕入れ価格などによるコスト削減をしやすく、給与は規模に比例する傾向があります。その点でも小規模法人は厳しいところがあり、経営の合理化や近代化も求められてくるでしょう。こうしたところで、商学部を卒業された企業での勤務経験もある田中会長の見識をぜひ取り入れていきたいと思っています。

——大規模法人は全施設の1割程度といわれますね。少し前には国で社会福祉法人の集約化が検討されましたが、その点はいかがですか。

**平石** 令和4年度から施行される社会福祉連携推進法人制度は全国老施協でも推進していきたいと考えています。

※社会福祉連携推進法人制度

社会福祉法人等が社員となり、福祉・介護人材の確保や、法人の経営基盤の強化、地域共生の取組の推進などの面で、法人間の連携・協働を図るための取組等を行う新たな法人制度。

**社会的使命を果たし、地域へ貢献する事業の展開を**

——都市部では数多の仕事があり、その中から若い方に介護の仕事を選んでいただくのは地方よりハードルが高くなります。そのため給与部分も含め、介護の仕事の魅力を強く発信していくことが必要ですね。



**田中** 高齢協の広報戦略推進委員会でもイベントやSNSなども含め様々な発信をしています。例えば現場の若手介護職ユニットの東京ケアリーダースはさまざまなイベントに参画しています。一方、法人の安定性、将来性、成長性を求職者に具体的に示す必要があります。その一つが地域への社会貢献だと私は考えます。株式会社最大のステークホルダー（利害関係者）は株主です。一方、社会福祉法人にとってのそれは、地域だと考えているからです。そして、地域に利益を還元するためには、経営が盤石でなければなりません。

社会保障費は抑制傾向で、今後経営には工夫が求められる時代になります。経営の安定のためには、法人の大規模化や社会福祉連携推進法人への参加も選択肢となります。また、国からは介護保険外の事業の示

唆もありましたので、そこで収益を上げることにも視野に入れるべきかもしれません。補助金や助成金だけを事業の原資にするのではなく、ファンドレイジング(民間非営利団体が活動資金を個人・法人・政府から集めること)にも力を入れなければならぬと思います。

**平石** 経営の近代化や合理化、規模の拡大というのはあくまで手段であり、目的は地域住民に対するいろんな社会貢献とセーフティネットとしての役割の達成です。社会福祉法人として、その本質を忘れてはならないと思います。



**田中** 私の施設では、働きづらい方への就労支援、家でも学校でもうまくいかない子どもへの食事提供や学習支援をはじめ、団地のパトロール、フードバンクへの協力などの地域公益事業を実施しています。11月からは住居を確保しづらいう方の居住支援事業を、都から居住支援法人の指定を受けてスタートします。これも収支でいえば持ち出しのほうが多くなります。こうした事業をするためには利益が必要で。

社会福祉法人はあくまで制度の中での仕事ですから、本質的な役割はきっちり果たさなければなりません。そのうえで効率化を図り、地域貢献にも取り組むべきです。コロナ禍での変化と苦難は様々な気づきを与えてくれました。それをき

かけに、今こそ私たちも変わらなければなりません。

——取材をしていると、介護現場での厳しい現実を目の当たりにします。そうしたところの改革も全国的に推進する必要があるのではないかと思います。

**平石** 全国老協では今年度の重点事項の一つとして介護現場の革新を掲げ、その一環として「介護ICT実証モデル事業」を実施します。これは各ブロック1施設、計8施設に全国老協から助成金をお出しして新しい事業に取り組んでいただき、そこで得られたノウハウを各地の施設に横展開するプロジェクトです。関東ブロックでは東京の施設が選出されました。ICTを活用した介護現場の革新においても、東京都にはリーダーとして期待をしています。

こうした事業から全国の施設の発展を促し、若い人にも介護を魅力ある面白い仕事だと思われるようにしたいと思



**ビッグデータを活用し、介護の質の底上げを**

——介護報酬の改定についてもうかがいたいと思います。今回の改定ではコロナ対策、災害対策の面で前進がありました。科学的介護推進体制加算(LIFE

加算)の面で大きな変化がありました。この推進が進めばデータが蓄積され、ベテランの技術の共有にもつながると思います。今回の改定の総括と、今後の展望をお聞かせください。

※LIFE加算

科学的介護情報システム(LIFE)へのデータ提出とフィードバック情報を活用することによる、PDCAサイクルの推進とケアの質の向上を図る取り組みを評価する加算制度

**平石** 今回の改定率は一定の成果があったと捉えています。LIFEについては様々な意見も出ていますが、ビッグデータを活用したエビデンスに基づいた介護が必要な時代であるのは間違いありません。しかし、新システムの導入は現場の負担になります。全国老協としては、LIFEが現状に合っているか精査し、収集されたビッグデータをどのように生かすか、今後2年間で検証し、今回の報酬改定での提案に活かしたいと思

**田中** LIFEは利用の仕方を探っている状態です。会員施設に対し、しっかりと研修を行いたいと思います。

また、次期改定の際には、加算だとそれを取るために新たな負担が生まれる面もありますので、基本報酬を増やしていただくことを切に望みます。

**平石** そうですね、シンプルな制度が望まれますね。加算だと書類作成などの面でも大きな負担が生まれます。しかし、国の意向としては専門性の高い分野を評価する考えですので、加算の流れも避けられないと思います。

しかし、全国老協としては、すべての施設が加算を得られることがスタン



左から町亞聖氏、平石朗氏、田中雅英氏、水野敬生氏(情報広報室長)

ダードになるよう介護の質を向上することで、現状の加算制度を基本報酬に組み込んでもらえるよう働きかけたいと考えています。

——これからの社会福祉では、様々な分野の融合が求められますね。共生社会の実現に向けて、社会福祉法人は大きな役割を持つてくると思います。お話を伺う中で、お二人の考え方は近いと感じましたので、今後全国と東京の連携もより進



んでいくと思われました。本日はありがとうございました。

高 齢 協 T O P I C S

# 東京の介護って すばらしい グランプリ 2021

介護の魅力を伝えたい  
そのあなた!

ぜひ応募してください!

最優秀賞  
5万円

高齢者福祉施設における多様な場面にスポットをあて、  
介護の仕事の魅力を広くPRする、年に一度のグランプリイベント。  
介護の魅力を伝えたい人なら、施設職員・利用者・ご家族などなど、どなたでも応募OK!  
優秀作品には豪華賞金・賞品をご用意しております。ぜひ奮ってご応募ください!

**応募期間 2021年11月8日(月)~2022年1月10日(月・祝)**

<b>募集部門</b>	動画部門 / 写真部門 / コラム部門 / レシピ部門
<b>賞金</b>	最優秀賞 <b>5万円</b> / 優秀賞 <b>3万円</b> / 入賞 <b>1万円</b> <small>※部門ごとに決定します。 ※最優秀賞1作、優秀賞2作、入賞3作の予定です。</small>
<b>応募方法</b>	以下フォームより必要事項をご記入の上、 <b>2022年1月10日(月・祝)までにご応募ください。</b> <a href="https://forms.gle/EtgfWoHWvZRbDEaP6">https://forms.gle/EtgfWoHWvZRbDEaP6</a>
<b>発表</b>	各部門の受賞作品は、WEBサイトにて発表・掲載を行います。 <a href="https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/">https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/</a> <small>※ページ内の最新情報をご覧ください。</small>

**その他、豪華賞品あり!**

- ヘラルボニー  
『アートハンカチ』等、豪華賞品をご用意!
- 「介護ビジョン」など、有名介護情報誌での取材・記事掲載の可能性あり!  
詳細は随時WEBでお知らせします!

**お問い合わせ** 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当  
 メール: [tkykourei@tcsw.tvac.or.jp](mailto:tkykourei@tcsw.tvac.or.jp) URL: <https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>  
 主催: 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会(情報・広報室) 企画制作: NPO法人Ubdobe

高齢協 SNS 更新中!

 <p>高齢協ウェブサイト</p> 	 <p>高齢協YouTube</p> 	 <p>東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 @tokyokourei</p> 
 <p>アクティブ @TokyoKourei</p> 	 <p>高齢協 会長 @koureikyo</p> 	 <p>高齢協Instagram</p> 

高 齢 協 情 報 ・ 広 報 室  
 室 長 コ ラ ム

特別養護老人ホームなどの入所施設に対して厚生労働省は昨年2月、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、緊急やむを得ない場合を除き、ご家族などとの面会を制限することが望ましい」との事務連絡を通知しました。それから2年が経とうとしている現在でも、一部の施設では今も原則面会ができないという状況下にあります。

こうした中、厚生労働省は、双方のワクチン接種や検査での陰性確認、マスク着用などの感染対策を前提とし、対面での面会再開を検討するよう施設側に求める通知を近く発出する方針を示しています。

さらに政府も11月、感染拡大時でもワクチン接種証明や検査の陰性証明を用いて行動制限を緩和し、大規模イベントの満員開催を容認し、飲食も人数制限を撤廃する方針も示しています。

面会や行事などの自粛は、ご利用者にとってQOL(生活の質)の低下を招くばかりでなく、何もしないことこそが高齢者の方々の生きがいや生存権を奪うことにもつながりかねません。

当面は続く予想され、Winコロナのあり方に、高齢者施設は心して向き合い、知恵を絞り続けることが、今こそ介護、福祉現場に求められているのではないのでしょうか。

情報・広報室 室長 水野 敬生